

令和6年度 定期作況報告

〈令和6年6月20日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

1. 気象経過

5月下旬：平年と比較して平均気温は0.8℃、最高気温は1.6℃、最低気温は0.7℃低かった。降水量は19.5mmで平年の88%、日照時間は58.3時間で同75%だった。

6月上旬：平年と比較して平均気温は1.0℃、最高気温は2.4℃低く、最低気温は平年並であった。降水量は10.0mmで平年の30%、日照時間は36.6時間で同53%だった。

6月中旬：平年と比較して平均気温は3.5℃、最高気温は4.5℃、最低気温は2.5℃高かった。降水量は10.5mmで平年の35%、日照時間は78.7時間で同163%だった。

以上、平年に比べ平均気温は0.6℃、最高気温は0.2℃、最低気温は0.7℃高かった。降水量は40.0mmで平年の46%、日照時間は173.6時間で同89%だった(表1)。

表1 気象表

調査項目	5月下旬			6月上旬			6月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	14.0	14.8	▲ 0.8	14.7	15.7	▲ 1.0	20.0	16.5	3.5	16.2	15.6	0.6
最高気温(℃)	18.7	20.3	▲ 1.6	18.6	21.0	▲ 2.4	25.5	21.0	4.5	20.9	20.7	0.2
最低気温(℃)	9.2	9.9	▲ 0.7	11.0	11.0	0.0	15.2	12.7	2.5	11.8	11.1	0.7
降水量 (mm)	19.5	22.3	▲ 2.8	10.0	33.5	▲ 23.5	10.5	30.4	▲ 19.9	40.0	86.1	▲ 46.1
日照時間(hr)	58.3	78.1	▲ 19.8	36.6	68.8	▲ 32.2	78.7	48.2	30.5	173.6	195.1	▲ 21.5

注1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前10か年の平均値である。

注2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

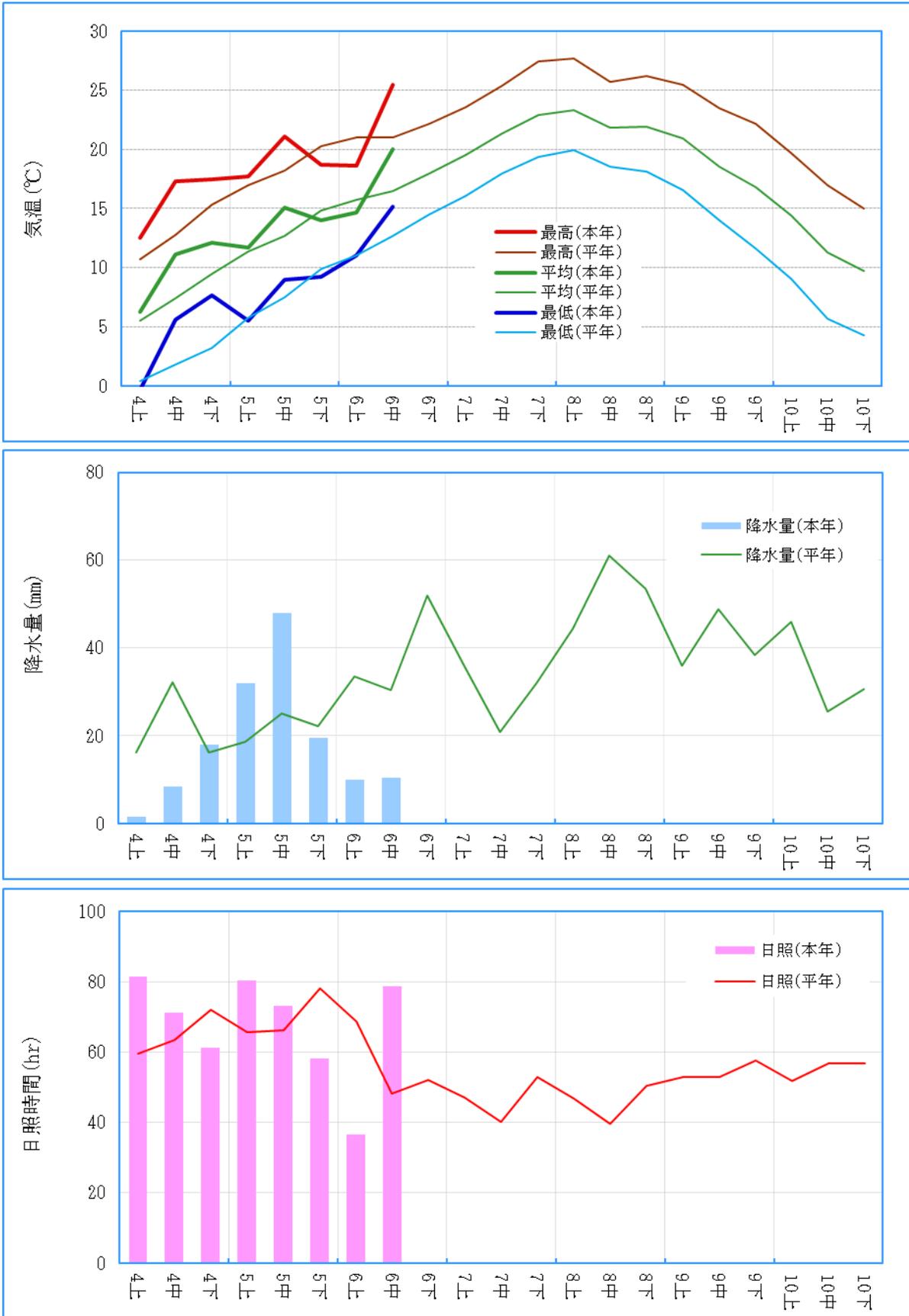


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和6年、北斗市)

2. 作況（水稻）

6月20日：平年並

事由：5月下旬から6月上旬は低温で寡照に推移し、苗の活着および生育は遅れた。6月中旬は高温で多照に推移し、生育は回復した。2品種ともに草丈は平年より長く、葉数は平年並で、茎数は「ふっくりんこ」で平年よりやや少なく、「ななつぼし」でやや多かった。2品種平均で茎数は平年並であった(表2)。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

5月20日：やや良

事由：播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28日であった。育苗期間中、4月下旬は高温で寡照、5月上旬は平年並の気温で多照、5月中旬は高温で多照であり、全体として高温でやや多照であった。移植は平年より1日遅い5月21日に行った。移植時の苗の形質において、2品種ともに草丈は平年より長く、葉数・茎数は平年より多く、地上部乾物重は平年を上回って重かった。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も2品種ともに平年を上回っていた(表2)。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稻の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表2 水稻の生育

項目	品種名 /年次	ふっくりんこ			ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1
	出芽期 (月日)	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1
	移植期 (月日)	5.21	5.20	1	5.21	5.20	1
	幼穂形成期 (月日)		7.01			6.27	
	止葉期 (月日)		7.17			7.15	
	出穂期 (月日)		7.26			7.24	
	成熟期 (月日)		9.15			9.09	
	穂揃日数 (日)		7			6	
	登熟日数 (日)		51			48	
生育日数 (日)		146			141		
移植時	草丈 (cm)	15.8	13.4	2.4	14.8	13.1	1.7
	葉数 (枚)	3.8	3.3	0.5	3.8	3.3	0.5
	茎数 (本/個体)	1.67	1.28	0.39	1.40	1.06	0.34
	地上部乾物重 (g/100本)	3.72	2.72	1.00	3.86	2.62	1.24
	地上部乾物重/草丈	0.24	0.20	0.04	0.26	0.20	0.06
本田生育	葉数 (枚) 6月20日	7.6	7.7	▲ 0.1	7.6	7.9	▲ 0.3
	(枚) 7月20日		10.6			10.5	
	止葉葉数 (枚)		10.7			10.6	
	茎数 (本/m ²) 6月20日	515	550	▲ 35	515	478	37
	7月20日		811			721	
	8月20日		711			651	
草丈 (cm)	6月20日	35.6	33.1	2.5	36.7	34.0	2.7
	7月20日		78.0			80.9	
	8月20日		93.5			93.4	
成熟期	稈長 (cm)		77.9			76.1	
	穂長 (cm)		16.0			16.3	
	穂数 (本/m ²)		703			647	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		47.3			51.2	
	m ² 当粒数 (×1000)		33.2			33.0	
	稔実歩合 (%)		94.1			94.5	
	m ² 当稔実粒数 (×1000)		31.3			31.2	
	同上平年比		100			100	
	登熟歩合 (%)		85.1			81.6	
	籾摺歩合 (%)		76.1			78.4	
	屑米重 (kg/a)		5.0			3.2	
	屑米歩合 (%)		7.7			5.0	
精玄米千粒重 (g)		22.7			21.7		
収量	わら重 (kg/a)		67.7			68.1	
	精粒重 (kg/a)		78.5			77.0	
	精玄米重 (kg/a)		59.7			60.4	
	収量平年比 (%)		100			100	
	玄米検査等級 (等)		2上			1下	

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成30年(2018年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m²(33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。